



神奈川県

KANAGAWA

# 漫画「人の息子」でわかる 里親って？



様々な事情から家庭で暮らせなくなった子どもたちを、一定期間自分の家庭に迎え入れ養育するのが里親制度です。漫画「人の息子」の登場人物が、里親説明会にご案内します。

©あのおの / 講談社

神奈川県児童相談所

## 「里親」って聞いたことがありますか？



ページを開いてくれた、あなたに知ってほしい ―

親の病気や離婚、虐待など、様々な事情で家庭で暮らせなくなった子どもたち。全国に約4万5千人、神奈川県内にも約2千人(うち、政令市・中核市を除く市町村には約700人)\*いて、その多くは、児童養護施設や乳児院などの施設で生活しています。

こうした子どもたちは、できるだけ家庭と同じような環境で養育されることが望ましいとされており、その担い手として期待されているのが「里親」です。

神奈川県内でもより多くの里親を必要としています。その数はまだまだ不足しています。また、里親制度への正しい理解も十分ではありません。

本リーフレットでは、里親をテーマにした漫画「人の息子」とコラボレーションし、神奈川県内の里親制度の概要や、県内で活躍している里親さんの体験談をご紹介します。

里親制度について知っていただくきっかけとなれば幸いです。

# 漫画「人の息子」登場人物紹介

養育のサポート  
協力

## 鈴木家



鈴木 農  
旭の養父



鈴木 藍  
旭の母



鈴木 悠  
旭の妹

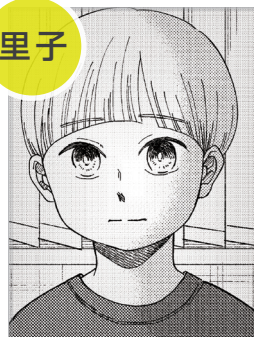
## 里親家庭

里親



すず き あさひ  
鈴木 旭

里子



やま もと たか ね  
山本 高嶺

31歳の漫画家。漫画家を始める前は保育士として働いていてその時に高嶺と出会った。小学校2年生になった高嶺から手紙が送られてきて再会し、彼と交流を深めていくことに。里親になるための研修を受け里親になった。

里親の鈴木のもとで暮らす9歳の男児。鈴木は高嶺の保育園時代の先生。鈴木と暮らす前は児童養護施設で暮らしていた。友達も多く利発なよい子だが、少し大人びている。母親と一緒に暮らしたい、もっとしゃべりたいという気持ちも強くある。鈴木のことを保育園時代の名残から「あさひ先生」と呼ぶ。

高嶺を旭に委託  
里親家庭の支援

## 児童相談所



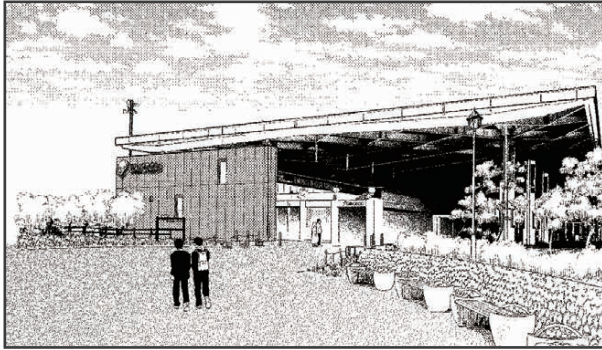
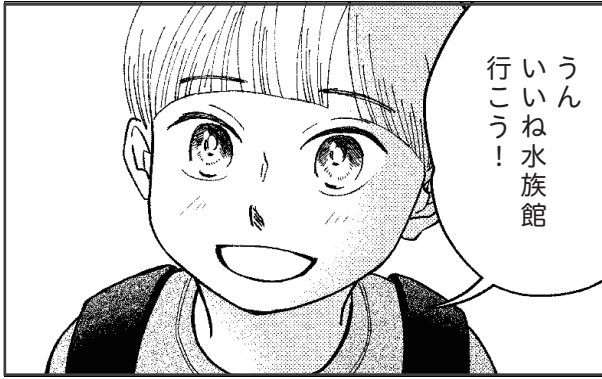
秋山 楓

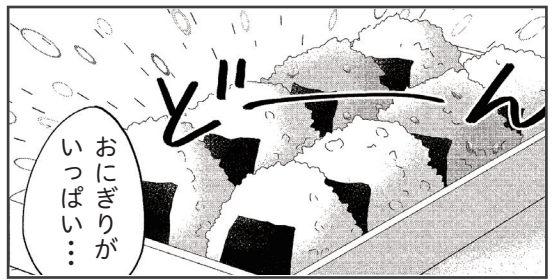
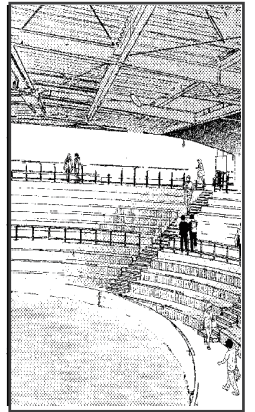
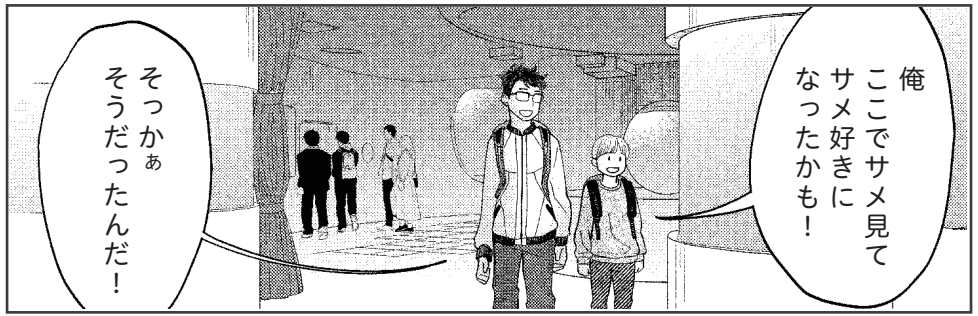
児童相談所に勤める児童福祉司。高嶺の担当。鈴木に里親制度のことを説明した。高嶺、鈴木のリフォローをしている。

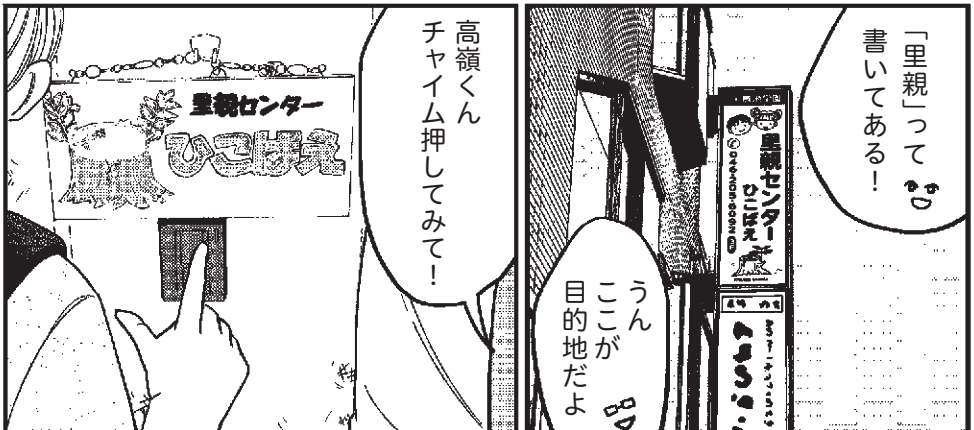
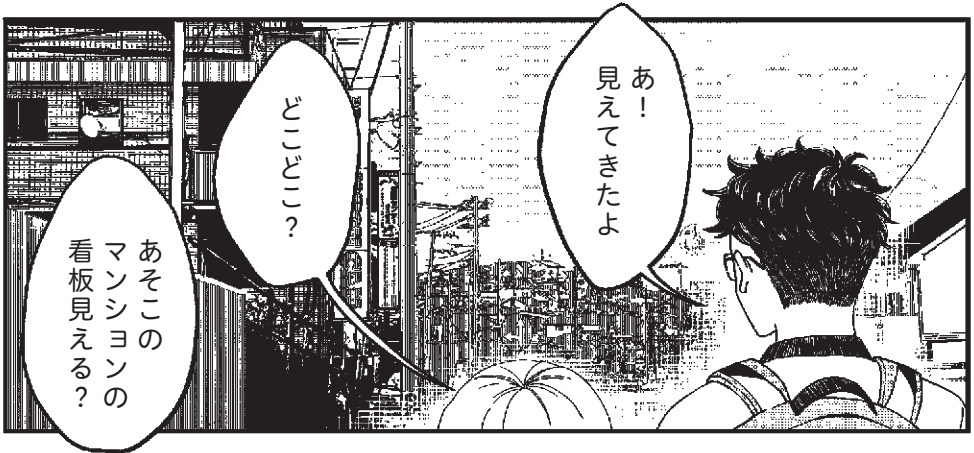
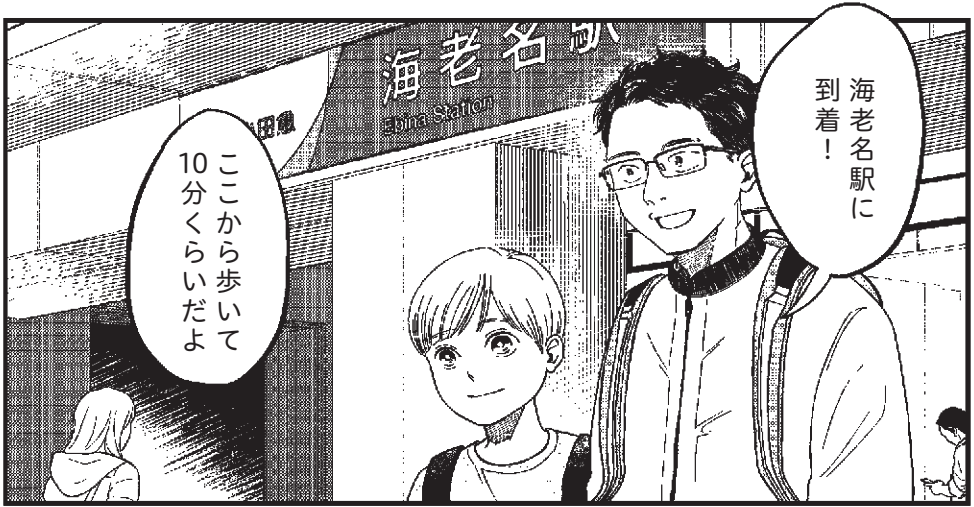
## あらすじ

漫画家である鈴木旭のもとに、保育士時代にみていた山本高嶺から手紙が送られてきた。鈴木は懐かしく思い、小学3年生になった高嶺と再会した。彼は母親と離れ、児童養護施設で暮らしているとのこと。交流を深めていくうちに、鈴木のなかで里親になるという考えが膨らんだ。いっぽう高嶺も、鈴木と「一緒にいる」ことを求めるようになった。鈴木は里親になるための研修を受け里親になり、高嶺は里子として、一緒に暮らし始めた。

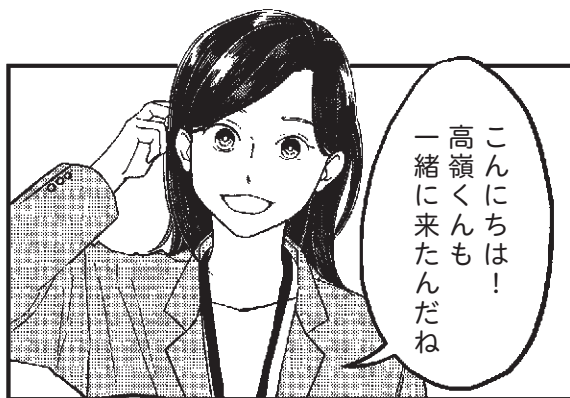
# 里親センター「ひこばえ」にて







※里親センター「ひこばえ」は、神奈川県からの委託を受けた里親支援機関です。里親が一人で不安や悩みを抱えないように、相談を受けついたり、里親同士が情報共有できる場を提供するなどの活動しています。



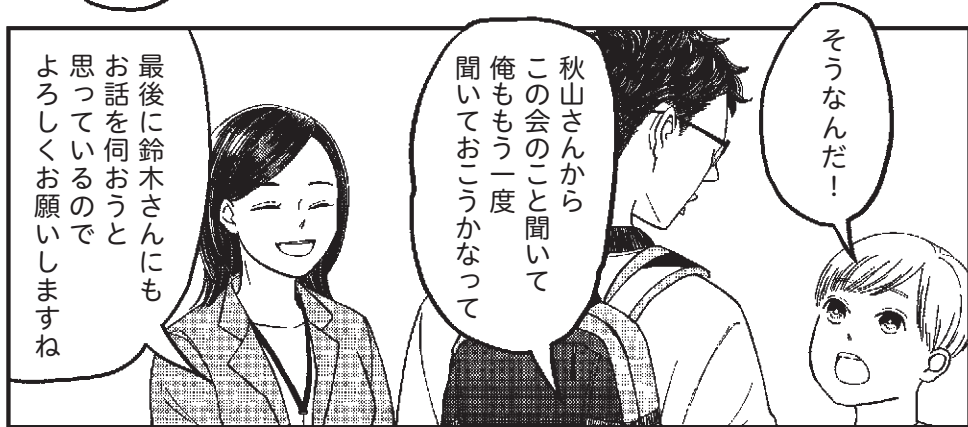
こんにちは！  
高嶺くんも  
一緒に来たんだね



あれ？なんで  
秋山さんたちが  
いるの？



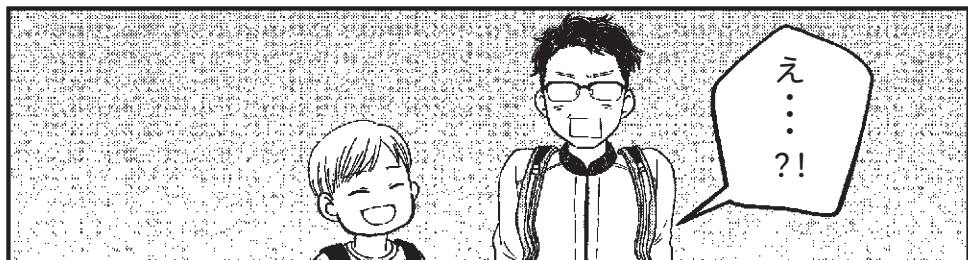
今日はここで  
里親になりたいと  
思っている人達に  
里親制度の説明をするのよ



そうなんだ！

秋山さんから  
この会のこと聞いて  
俺ももう一度  
聞いておこうかなって

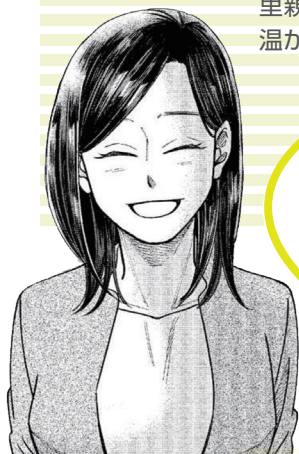
最後に鈴木さんにも  
お話を伺おうと  
思っているので  
よろしくお願いしますね



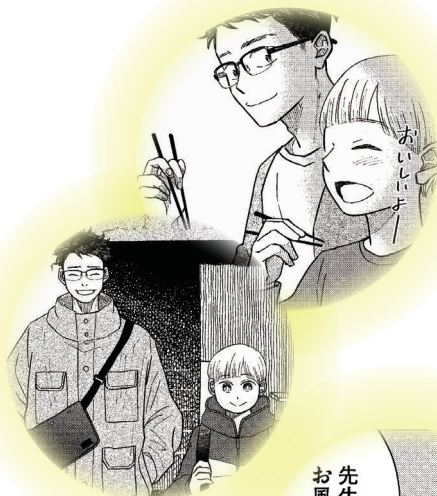
え……？！

# 里親について 知ってください

様々な事情から家庭で暮らせなくなった子どもたちがいます。  
里親制度はそんな子どもたちを、一定期間自分の家庭に迎え入れて、  
温かな愛情と理解を持って養育する児童福祉法に基づく制度です。

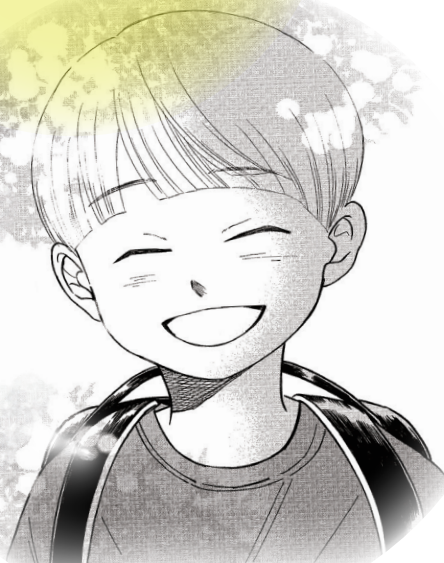


里親家庭で育つことによって  
毎日同じ家族で食卓を囲んだり  
家事の手伝いや休日のお出かけ  
里親の親戚・友人や地域の方との交流など  
一般的な家庭生活を経験することができます。  
こうした経験が子どもたちの成長にとって  
大切なことなのです。



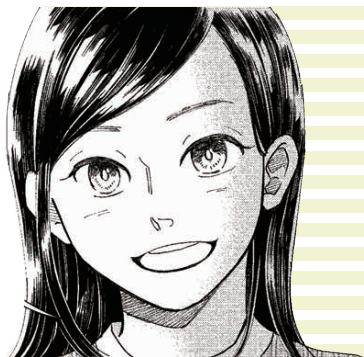
おうちで暮らして  
一緒に買い物に行ったり  
ごはんを作ったり  
学校も行ってるよ!

先生  
〜  
お風呂出たよ





## 里親の種類って？



鈴木さんのように子どもにとって必要な期間養育を行う養育里親、養子縁組することを前提とした養子縁組里親のほか、専門里親、親族里親があります。また、施設で暮らしている子どもの家庭体験等のため、週末や長期休みなどに短期間受け入れる3日里親という制度もあります。

### 里親になる要件って？

所定の研修の受講や適切な住環境など一定の要件を満たしていれば、特別な資格は必要ありません。何よりも重要なのは、子どもの気持ちを大切にできること。子どもに寄り添い、温かい愛情と正しい理解を持って接することができれば大丈夫です。

### 困ったり悩んだりしたときには？

ご相談はお気軽に。神奈川県では、児童相談所のほか、複数の里親支援機関が連携して里親家庭をサポートしています。また、里親会を始め、里親仲間と交流できる場や先輩里親に相談できる機会もたくさんあります。

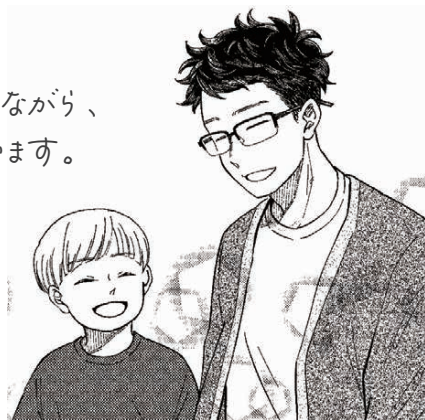
### 費用面は？共働きでもいいの？

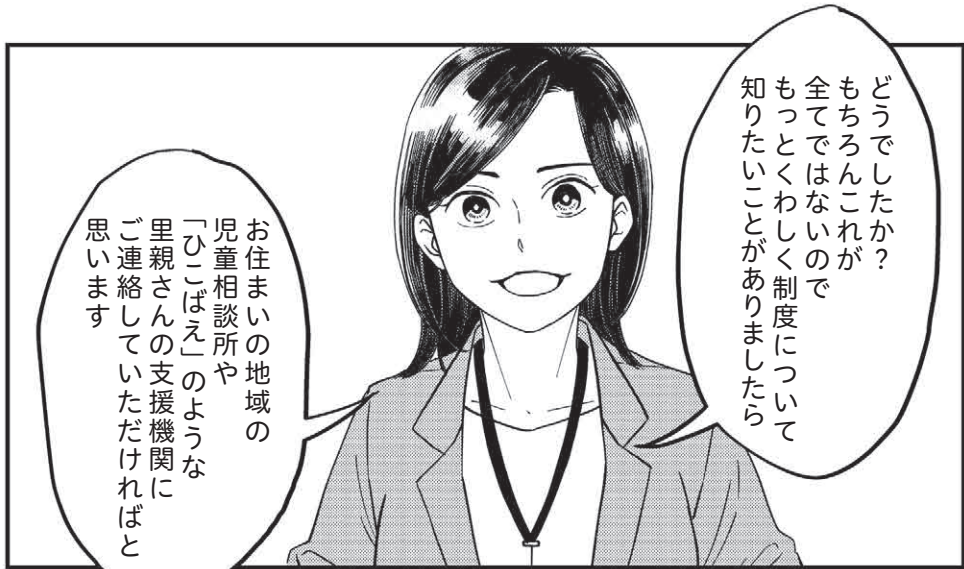
生活費、教育費、医療費など、子どもを育てるために必要な費用が国と県から支給されます。子どもの養育に支障のない範囲での共働きは大丈夫です。それぞれの家庭に合った委託を考えていきます。

今みたいに気軽に聞いていいんだね。

僕は单身なので、実家の両親の助けも借りながら、養育里親として高嶺さんと生活をともにしています。

※ 委託は児童相談所の判断に基づき決定します。子どもが里親を選んだり、里親が子どもを選べる制度ではありません。





どうでしたか？  
もちろんこれが  
全てではないので  
もっとくわしく制度について  
知りたいことがありますら

お住まいの地域の  
児童相談所や  
「ひこばえ」のような  
里親さんの支援機関に  
ご連絡していただければと  
思います



では鈴木さんが  
準備している間に  
神奈川県ですでに里親として  
活動している方たちの  
お話をうかがって  
みましょう



さ…  
おさらいもできたし  
高嶺くん帰ろうか！

…鈴木さん



はじめに  
お話し聞かせて  
くださいって  
いいましたよね？

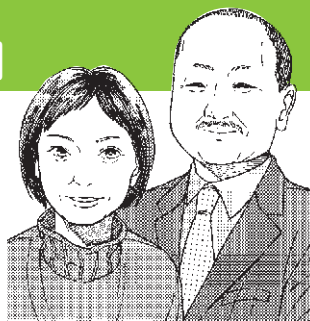
う…

# 神奈川県の里親さんの体験談!! ①

## 養育里親編

奥野 祐子さん 豊さん

約7年前に養育里親として登録。長期での委託だけでなく、一時保護委託の受入れもしており、常に子どもが数人いる生活を送っている。現在は養育縁組をした子も含めて、3人の子どもを養育しています。



### 里親になったきっかけ

実子がいなかった奥野さんたちは子どもを育てたいと思っていて、里親について調べていました。明るく楽しくがモットーな豊さんの方が積極的でしたが、責任感の強い祐子さんの方は「他人の子を育てる責任の重さ」を感じていました。ある日の旅行で二人は「子どもを育てたい」という原点に立ち返り、帰宅後に児童相談所へ連絡し、里親登録をしました。

### 養育里親の活動の中で大切にしていること

始めはとにかく「何かをしてあげたい」と思っていました。一番最初に預かった子が小学生ということもありたくさん自分の気持ちをお話ししてくれましたが、言葉の裏側に色々な思いを秘めているのではと感じました。「人それぞれ違うんだ」「型にはめようと接してはいけない」ということに気づき、今は、子どもが子どもらしくのびのび生活できるよう意識しています。

### 未来の里親さんたちへのメッセージ

一番の楽しみは、子どもの成長を感じられることです。例えば子どもが運動会で走っているのを見たり、手紙をたくさん書いてくれたりするととてもうれしいです。特に手紙は、始めは何を書いているか分からなかったですが、「はいあげる!」と言って持ってきてくれるんです。きっと私たちを一生懸命描いてくれたんだろうなという似顔絵なんですけど、もらうだけでうれしいんです。それが、だんだん文字が書けるようになってきたりして今では「がっこうがんばってるよ!いつもありがとう」「とうちゃんかみのけはえないの?」とか(笑)内容の変化にも成長を感じます。3人の子どもがいるのでとても賑やかです。

里親にとって大切なのは、まずは子どもが大好きなこと、そして子ども中心に考え、子ども中心に楽しめることだと思います。夫婦で子育てに関して意見が違うことはありますが、夫婦でも常識が違うのは当たり前、と感じるようになりました。

それから、同じ経験を持つ里親仲間の存在はとても心強いものです。子どもの養育に関する悩みに共感してもらえることで、不安があっても「何とかなる!」と思っています。

やっぱり大切なのは、  
子どもの気持ちに寄り添って考えることなんですね。  
僕も高嶺君が気負わず安心して暮らせるように心がけたいな。  
あと、里親さん同士のつながり僕もほしい!

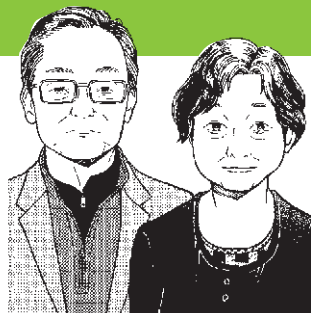


# 神奈川県の里親さんの体験談!! 2

## 3日里親編

渡部 信夫さん チイ子さん

約14年前に、養育里親として登録。3日里親や一時保護など短期での受入れを中心に活動している。現在は3日里親として、4人の子どもたちを定期的に施設から受け入れている。この中には別々の施設で生活しているきょうだいで含まれているので、渡部さん宅がきょうだいで過ごす交流の場にもなっている。



### 里親になったきっかけ

始めから里親をやろうと思っていたわけではなかった渡部さん。チイさんは保育士として働いていましたが、定年を迎える少し前に退職しました。「社会とつながりたい」「子どもに関わりたい」と思っていたところに、里親体験談を聴く機会がありました。そこで「里親になってみたい」と思い家族へ相談。信夫さんも子どもは好きだし、自分たちの年齢に応じた活動ができれば、と思い里親登録をしました。

### 「3日里親」としての活動で大切にしていること

毎日一緒に生活しているわけではないので、子どもたちが来るときは、どうしてもお出かけやイベントが多くなりがちです。もちろん子どもは喜ぶますが、一般的な家庭の「何気ない日常」を体験をすることも大切ではないかと考えました。それこそ「何もしないでゴロゴロする」ということも含めてです。私が揚げ物を作ると、隣で「お味見!」と言って熱々をつまみ食したりとか…。些細かもしれないけれど、子どもたちにとって大切な経験になればと思います。

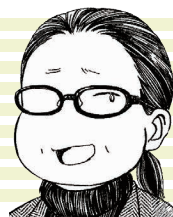
### 未来の里親さんたちにメッセージ

きょうだいを預かっているときに、子どもたちが興奮のあまり大声を出して騒いだり物を投げたりしたことがありました。でも、普段は別々の施設で暮らしているので、きょうだいげんかをして絆を深めることができたと思います。ほかにも、一時保護で預かった幼児がなかなか泣き止まなかったりなど、もちろん大変なこともたくさんありました。それでも続けてこられたのは、何にも代え難い子どもたちの嬉しそうな笑顔があったからです。里親活動をする上で心掛けてきたのは、子どものありのままを受け止める、ということです。子どもたちが肩の力を抜いてリラックスできる環境を提供したいと思っています。つついとい言いたくなることはたくさんあるけれど、ゆっくり気長に、適度な距離感で付き合っていくことで、子どもたちもうちに来るのを楽しみにしてくれていると思います。

私たちがこういったお話をすることで、少しでも「3日里親という制度もあるんだ」ということが広まれば幸いです。

神奈川県には約260組\*の里親さんがいるの。  
長期の受入れだけでなく、渡部さんのように短期の受入れを  
メインに活動している里親さんも多いのよ。  
じゃあいいよ次のページで  
鈴木さんと高嶺くんインタビューするわよ!

\*令和3年度現在、政令市・中核市を除く



児童相談所所長 浅井

## 里子に聞いてみよう!

いろいろ気になるよね  
僕もはじめはそうだった



答えてくれるのは  
山本 高嶺くん

Q

里親さんの家で、  
どんな風に暮らしているの？

あさひ先生がお仕事の時以外はリビングでお話ししたり一緒にゲームしたりしてます。ご飯を作ったり、お風呂を洗ったりお手伝いもたまにしています！あさひ先生のお家は施設みたいに広くはないし、お友達もいないけど、あさひ先生がいてくれるので楽しいです。朝起きると時々あさひ先生がリビングで寝ちゃってることもあるけど、そんなこともなんか笑っちゃって楽しいです。

Q

里親さんと暮らしてて、  
困ったことはある？

お友達にあさひ先生のことがかうまく言えなくて、それがきっかけであさひ先生にもかくしごとをしちゃって悪いことをしちゃったことがあります。

Q

里親さんと暮らしててよかったことは？

最初秋山さんから里親さんの話を聞いた時は、お母さんとはもう会えないってことかなと思ったけれど、里親さんのお家で暮らしながら、お母さんと暮らす方法を考えることもできるんだよと教えてもらいました。それができるとてもよかったです。この先どうなるかはまだわからないけど…あさひ先生と一緒に暮らせなくなるのは、やっぱりさびしい。でもお母さんとできることなら暮らしたい。あさひ先生や秋山さんと相談しながら少しずつ、自分の気持ちを整理できるといいなって思ってます。

緊張したー！でもお話できてよかった！  
自分の気持ちを伝えるのってとっても難しいんだ



## 里親に聞いてみよう!

僕の体験でよければ  
お話します

答えてくれるのは  
鈴木 旭さん



Q 里親になって、よかったことは?

里親研修で、高嶺君のようにいろんな事情で家族と暮らせない子どもたちがたくさんいることを知りました。高嶺君の里親になることで、そういう子どもたちを支えることに少しでも繋がるのかなと思うと、やってよかったなと思います。

後は、僕のよかったことというより、高嶺君のよかったことかもしれないですがお友達を家に呼んだり、大好きなお寿司をいつでも食べたりできることですかねえ。

リラックスした高嶺君を見ているとやってよかったなと思います。

僕自身も実家を出て長いので、久しぶりに家庭の暖かさを感じています。

Q 里親になって、大変だったことは?

大変というほどではないんですけど、高嶺くんには施設で出来た集団での生活リズムがあって戸惑っていたことがありました。例えばお風呂に入る時間ひとつとっても、僕にとっては普段考えもしないような当たり前になっていることだったので正直少し驚きました。

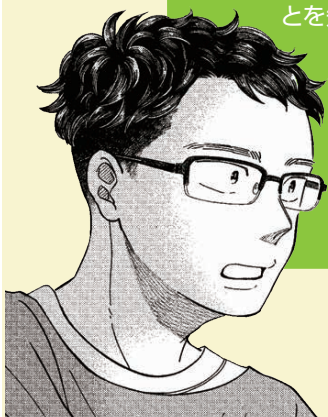
他にも高嶺くんなりに遠慮があって、意思の疎通が上手くいかずちょっとしたトラブルもありました。

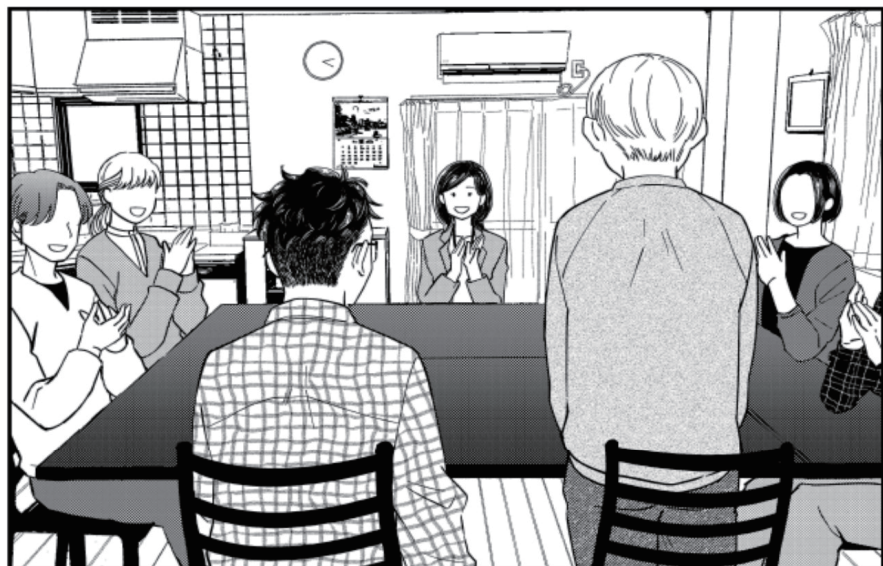
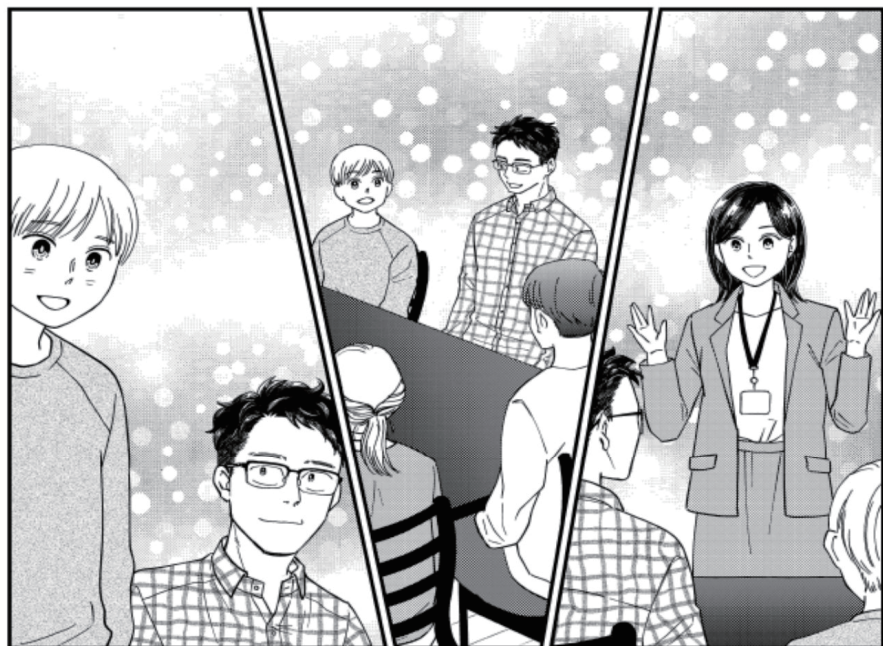
### リーフレットを見た方にメッセージ

里親制度を知ったきっかけは僕の場合は高嶺くんでしたが、みなさんは子どもたちのために何かできないかな?とかいろいろなきっかけがあると思います。興味を持った方は「なる」「ならない」は一旦置いてお住まいの地域の児童相談所やひこばえのような里親支援機関の話を聞いていただいて、「里親制度のことを知っている人」になってもらえたら1人の里親として嬉しいです。

高嶺君を受け入れる時に、学校の先生や近所の方にご挨拶をした時感じたのですが、学校や地域で、まだまだ「里親家庭で生活をしている子どもがいる」ということがしっかりと知られていないんだなと感じました。

なので今回お話したことが、少しでも地域全体で「里親制度」を知るきっかけになればいいなと思います。





いかがでしたか？ まだまだ話は尽きなそうですね。

神奈川県では、このような里親制度の説明会や里親さんの体験談を聞ける機会をご用意しています。詳しくは、お住まいの地域の児童相談所、または里親センターひこばえまで。

**里親センターひこばえ** TEL 046-205-6092

※漫画「人の息子」はフィクションです。

なお、本リーフレットに登場する里親センター「ひこばえ」や体験談をお話いただいた里親さんは実在します。



## 人の息子

講談社モーニング

「人の息子」は里親制度をテーマにした漫画です。

神奈川県在住の著者「あのあやの」さんにご協力いただき、里親制度普及啓発を行っています。

©あのあやの / 講談社

### あのあやのさんからのメッセージ

今回神奈川県在住ということで、素敵な機会をいただきました。漫画「人の息子」がきっかけで少しでも里親制度を知っていただけたら嬉しく思います。

里親に関してのお問い合わせは、  
お住まいの地域の **児童相談所** または **里親センターひこばえ** まで

里親について詳しくはこちら ▶



[このリーフレットに関する問合せ先]

神奈川県中央児童相談所 電話:0466-84-1600